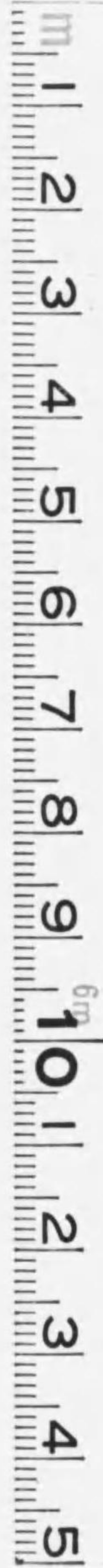


特253

618

獨逸の觀光及び經濟事情に就て

(長井亞歷山氏講演概要)



始



特253
618

獨逸の觀光及び經濟事情に就て

(外務省商務書記官 長井亞歷山氏講演概要筆記)

昭和十四年三月十一日 於 都ホテル



長井氏は、永年獨逸に滞在して、獨逸の現狀に就て、最もよく知る人である。氏は、獨逸を知友多く日獨通商の促進に大いに與つて力あつた。蓋し、世界の現狀に於ては、往日の如く自由通商の市場を獲得することは、大体に於て、競争國からの干涉に依り不可得に獨逸の危險性があるから、斯かる危險性を排除して安全に通商するがために、當事國間に通商協定を締結する必要がある。斯かる意味に於て、日獨通商の上に長井氏が貢献されたものは實に大きい。因に、今回の講演は

講演

一路復興の途上を進む現代獨逸の經濟を、私が自ら味つた同國の觀光事業と結びつけて話す。先づ

獨逸の經濟について説明する。

獨逸の經濟の特性たる統制經濟こそ、正に獨逸復興の原動力である。如何にして、統制經濟が獨逸復興の必須な條件として現れたか、而して、獨逸が、何故經濟的復興と結び附いて觀光事業に力を入れるか？

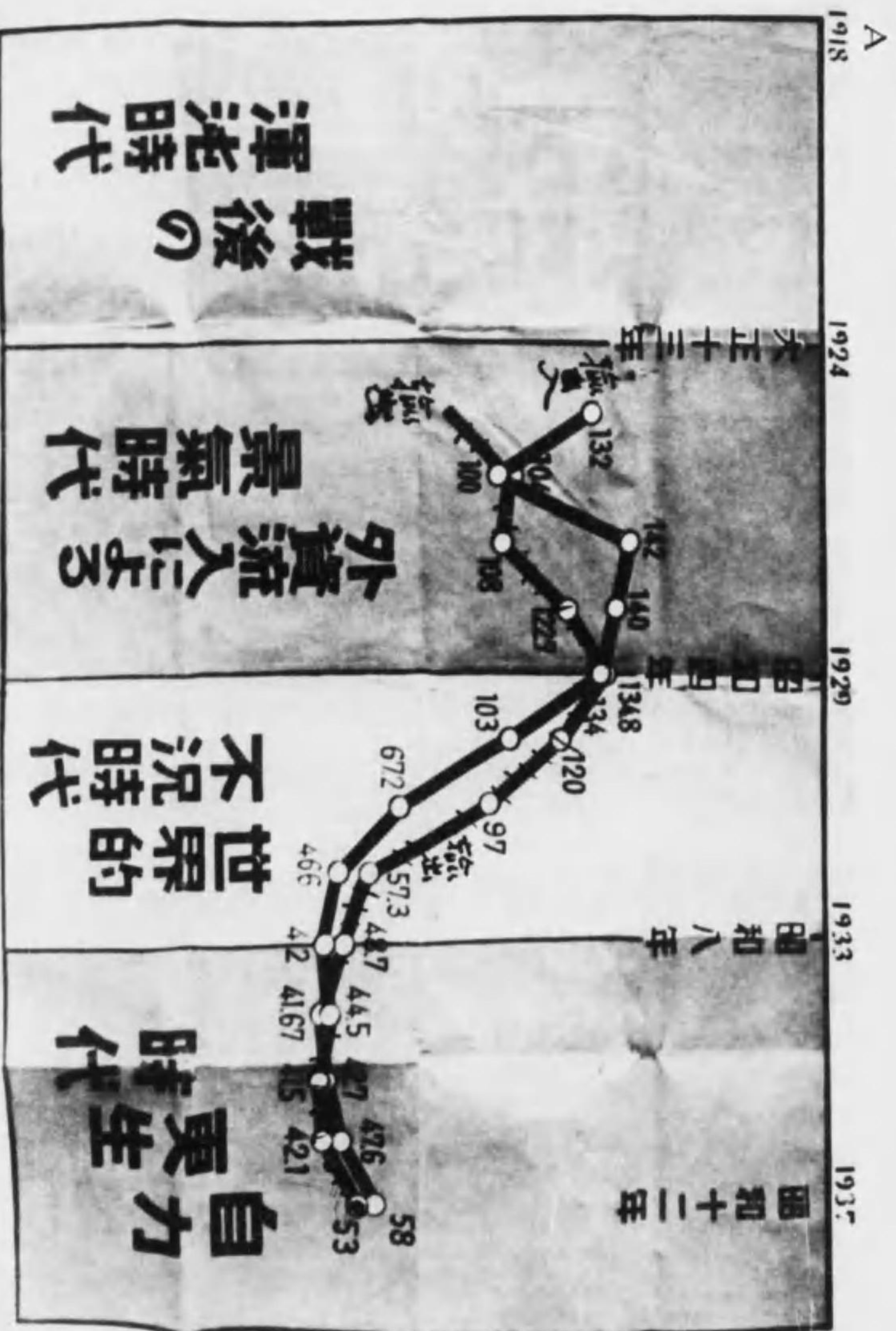
之を解明するためには、世界戦争後に於ける獨逸の經濟渾沌時代から順次説かねばならない。

獨逸は、世界戦争に要した巨額の戦費を、自國の力で賄つた。夫故に、大戦後のインフレーションに獨逸は悩まされた。

(以下 挿圖 Aを参照)

(1) 戦後渾沌時代(一九一八—二四)

此時代に、各國は獨逸を經濟的に壓迫した。獨逸は賠償問題も、其の額も決定を見ず、未だ外債を募ることさへも出来ない状態にあつて、國內を擧げて不安渾沌の中にあつた。然るに、一九二四年にドウズの公債が成立し、八億の外資が獨逸國內へ入り、こゝに獨逸中央銀行が建直り、又、金貨マークも建直つた。この年から、外資流入景氣時代は始まつた。



(2) 外資流入に因る景氣時代（一九二四—二九）

この時代に、二三八億マーク位の外貨が、獨逸國內へ流入し、戦後疲弊の極に達してゐた獨逸の財政は復興した。この時代、獨逸人は、誰でも外資の流入に因る獨逸の復興は永續すると考へてゐた。然るに、一九二九年、世界的不況が襲ひ來り、從來獨逸へ金を貸してゐた國々も、最早、新たに金を貸しつけなくなつたのみではなく、從來貸しつけてゐた金さへも、獨逸國內から引き上げてしまふといふ有様であつた。茲に於て、外資を永久に誘致して國內の經濟的復興が可能である、と信じてゐた獨逸人の考へは、外資の流入の中絶ばかりでなく、獨逸國內からの外資引上といふ事實によつて、根本から裏切られた。即ち、外國の「力」に依存するの危險なる所似が實證せられたのであつた。之と同時に、一國の經濟が、惠まれた國の經濟政策に左右されるものであることも判明したのである。一國の盛衰が他國の政策の如何によることの危險を、獨逸はこの苦き經驗で明瞭に體驗したのである。夫れ丈けに、自力更生の必要を痛感した。外資流出防止が、實に爲替管理を生んだのも、少くとも借入れた資金丈でも引き止めんがためであつた。

(3) 世界的不況時代（一九二九—三三）

この時代に於ては、獨逸の貿易は激減し、生産は萎縮し、國內には失業者が街頭に充滿してゐた。このどん底に沈む祖國を復興すべく政權を握つたのは「國民社會主義」即ちナチスであつた。ヒットラー總統は、當時の獨逸の經濟實狀に對して次の如く述べてゐる。

(一) 外國の財政的援助を期待するの危険を、國民は既に體驗してゐるから、改めて言ふ必要はない。

(二) 夫故、獨逸の復興は、獨逸、並に獨逸人で成し遂げねばならぬ。

自力更生を覺悟した獨逸は、

a、食料飼糧は、大體國內全需要の八割しか自給し得ない。

b、原料は、國內に石炭と塩位が豊富である以外は、不足して居つて、外國に供給を仰がねばならぬ。

獨逸國民に充分食料を支給し、又、各種生産の原料の供給を確保するためには、一方、外貨の節約即ち、國內の外貨流出を防ぐ外、なるべく多くの外貨を獨逸國內へ受け入れることが必要であつた。この必要を充す爲には、觀光事業は最も望ましい一つの方法であつた。貿易の場合は、商品を外國へ

輸出し、其の代り金として外貨を受け入れるのであるが、觀光の場合は、外國人が國內に於て、外貨を消費して呉れるのであるから、商品を外國へ提供する必要がない丈、利益が多い。

ナチス獨逸が標榜する統制の目的は、次の二つである。

(一) ヴェルサイユ條約の廢棄。

(二) 獨逸國民に十分な食料及生産原料を與へること。

即ち、先づ政治的に獨乙を「ヴェルサイユ」條約の壓迫から救ひ出した上でなければ、經濟的復興は出来なかつた。

斯かる任務を有する獨逸政府は、必然的に、政治を經濟に先行せしめなければならなかつた。物的資源の少い獨逸は、何を以て復興の資源としたか？、貧しい獨逸としては、實に人的資源以外にないが、之が世界を驚かした優位な原動力であつて、脅威的實績迄も示した。

然らば、獨逸に於て、この人的資源は如何に動員せられたか？ 次の二つの方法を擧げて置く。

(一) 七百萬の失業者に悉く職を與へること。

(二) 各人の働きを同一方向に使ひ、一切相互の働きの無駄を廢したること。

ヒットラー總統は、今年の國會に於て、このナチスによる獨逸の人的資源動員の成果を讀んで次の如く演説した。

「今日の獨逸人は、十年前、二十年前、更に三十年前の獨逸人と、其の性質も能力も變つて居らぬのみか、人口に於ても殆ど異つて居らぬ。同じ獨逸人が、過去に於て成し遂げなかつたことを、今日の獨逸人が遂げ得たことは、最も有効に、全的に、獨逸人の全能力を動員する組織と、規律とを保持したことによるのだ。」

獨逸全土に互つて充滿してゐた七百萬人の失業者は、今や、一人残らず職を得て 各人、夫々國力復興のため有意義なる仕事をなして、國家に貢獻する意義ある生活を日々送つてゐる。

自由主義が横行する國は、個人主義の地盤に立つが故に、各人の能力は相互に對立し、衝突することを免れ得ない。然るに、全体主義は、各人の能力を國家全体の働きの一部分として組織し、統一的に發揮させる。斯かる國家の全体を動員するに必要な「指導」と「組織」とを獨逸に於ては養成する。斯くて組織化された人的資源を優位の原動力とする獨逸の經濟力は、今日の全歐洲を制壓する獨逸外交の一大底力である。

然らば、斯くの如き獨逸の經濟は、如何なる内容を有するか、其の主なるものだけでも述べて置く。

(一) 外貨取得に對する方策

工業資源、並に食料飼糧に乏しい獨逸としては、之等の物資を外國に求めねばならぬから、自然、貿易より受け入れる外貨が最も必要である。獨逸の國內の産金は皆無である丈に、貿易が唯一の外貨取得の手段である。外貨取得の方法の主なるものは、

(一) 輸出の取締 即ち、輸出商品の代金が、必ず自國へ流入すること。商品が輸出されても、代金が外國で停滞するか、又は其の儘逃避する時は、益々國家に損失を及ぼす譯である。之を防止するため、輸出者をして、獨逸中央銀行に輸出の申告をなさしめる。其の目的は、

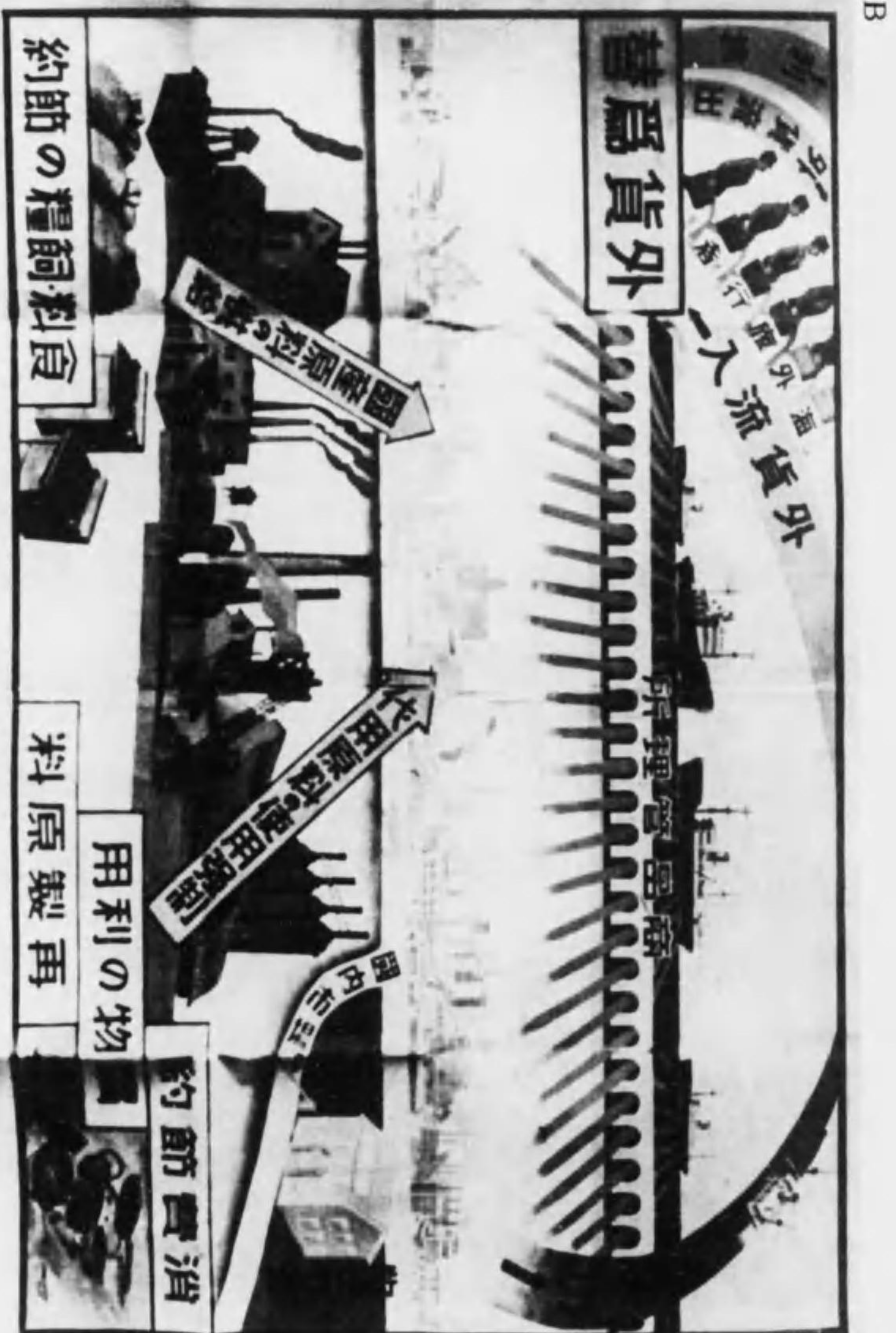
イ、其の代金が必ず全部、又、確實に自國に流入すること。
ロ、前記代金の額と、受入時期とを確實に知る爲め。(ロ)は獨逸産業に必要な原料の手當を豫めなし置くために、特に必要である。又、豫め原料輸入に必要な外貨割當の有無を知ることが、(一)輸入者 (二)原料を使用する生産筋、之等兩者に取つて最も必要である。

(二) 外貨は全部徴發

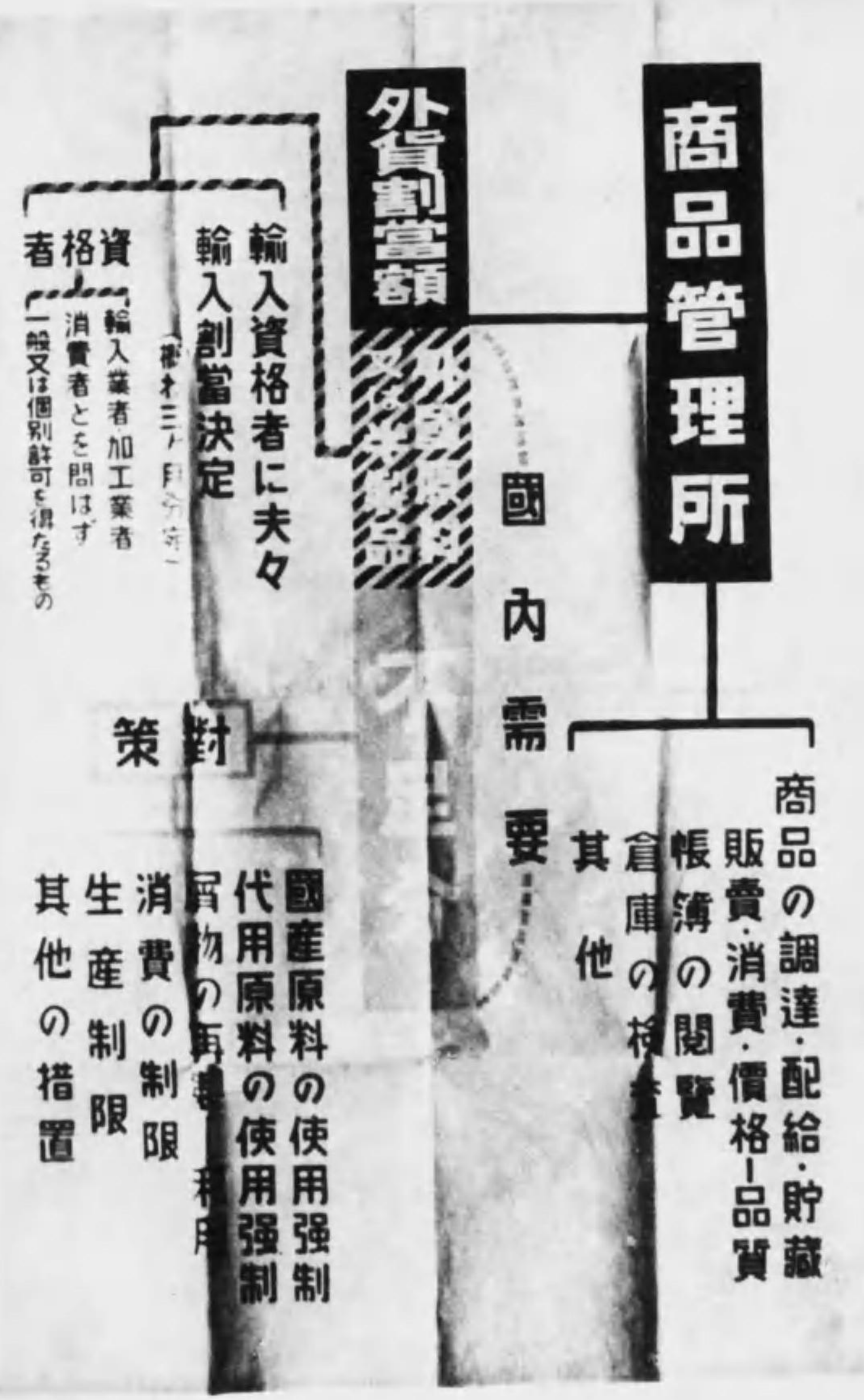
イ、復興のため著しく不足の外貨であるから、獨逸爲政者は、獨逸國內に存する外貨を徴發する。即ち、國內人で外貨を取得するものありとすれば、三日以内に獨逸中央銀行に之を提供しなければならぬ。銀行は、之に對してマークを呉れる。

ロ、外國への旅行者には、一ヶ月僅か十マーク持出を許すのみである。此の取締には、船員にも例外を認めて居らないから、獨逸船の船員は、一ヶ月に僅に十マークしか上陸の際に持ち出すことが出来ないのみか、若し、客から「チップ」として外貨を貰つた場合には、之を係(事務長)に提供しなければならない。徴發した外貨に對しては、國內マークを貰ふが、之は云ふまでもなく、外國に持ち出せない。船員は陸に持ち出せない。爲替管理の違反者には嚴罰が課せられるが、極刑は死刑と聞いてゐる。

右の外に、幾多の取締があるが、要は總ての外貨を政府の用に供するにある。然らば、斯かるいとも嚴重な方法で政府の手に收められた外貨は、如何なる方法によつて、最も有効に國家のために使用せられるか？



B



國家の重要な用途を擧ぐれば、次の三つであらう。

- (一) 國防
 - (二) 輸出産業用原料
 - (三) 外國から食飼料輸入のため
- (以下 B圖及び C圖参照)

「商品管理所」の役割

國防原料、輸出産業の原料、並に食料の輸入は、何れも「商品管理所」を通して行はれる。總ての獨逸へ輸入される商品は、二十八の商品管理所が夫々擔當商品を有して處理してゐる。「商品管理所」は、原則として決して政府の機關ではなく、政府から獨立した法人である。凡て、外國から商品を輸入せんとすれば、輸入許可を商品管理所に申請せねばならぬ。許可は、輸入資格者のみに附與せられる。資格者とは、或る法定年度に於て輸入したことのあるもの、並に其の實績に應じ、概して三ヶ月分を單位として許可額を豫め割り振り、但し、其の輸入資格者が割り振られた額に對して當然許可を期待し得ない譯は、輸入品の價格が國際市價に、品質は獨逸の規格に、又、支拂條件が國策に適合す

ることを要する。併し、以上の条件さへ合へば三ヶ月分の輸入額の見透しは輸入資格者につく譯である。

「商品管理所」は、國內需要に即應する丈の外國品の輸入は、其の割り當てられた不足勝ちの外貨の範圍では出来ない。國內産業から要求される不足分の手當も行ふ任務がある。それには、國內で供給し得る國産原料、又は代用原料の調査、「ストック」の現在高、消費の節約か、生産の制限、廢物の利用、其他の手段を以て國內の供給程度を確め、更に其の辻褄を合せる働きをなす役割を演じてゐる。そのため、帳簿の検査、其他必要の取締を行ふのである。之を要するに「商品管理所」は、

(一) 外國品の輸入

(二) (一)の不足に對し、國內供給の途を講ずること。
等である。

「商品管理所」の經費は、輸入資格者が支出する手数料によつて購う。

斯くの如き組織的な統制の方法を案出した人は、シャハト博士であつた。シャハト博士の言葉を借

りるならば「統制經濟は、獨逸の實情を最も正直に直視して「ツクツクメッシュ合目的な方法で行ふこと」である。今日の統制經濟が獨逸に於て斯くも成功を收めてゐる所以は、組織に因る強制よりも、寧ろ規律を嚴守する國民が國策に自發的に順應する努力に因るものである。勿論、獨逸に於ても當初は、統制經濟を實行するために取締によつて國民を統制に服するように強要したが、遂に國民も統制の眞意を理解し、政府の取締を待つまでもなく、自發的、積極的に國策の實現に協力するに到つた。又、統制經濟實施に當り必要とする根本條件は左記の三点であらう。

(一) 賃銀率の釘づけ(七百萬の失業者を救ふに當つてと、其の購買力確保の爲にした)

(二) 嚴格なる物價管理。

此の二つに重点を置いたことは、インフレーションの防止に最も役立つてゐる。

(三) 金融、並に資本に對する統制(資本に對する利廻の統制と、公債消化のためにする投資に對する制限)

「民間業者団体」

◎獨逸中央經濟會議所

次に獨逸の統制經濟を特徴づけるものは「獨逸中央經濟會議所」並に、之に屬する各種の會議所や團體である。

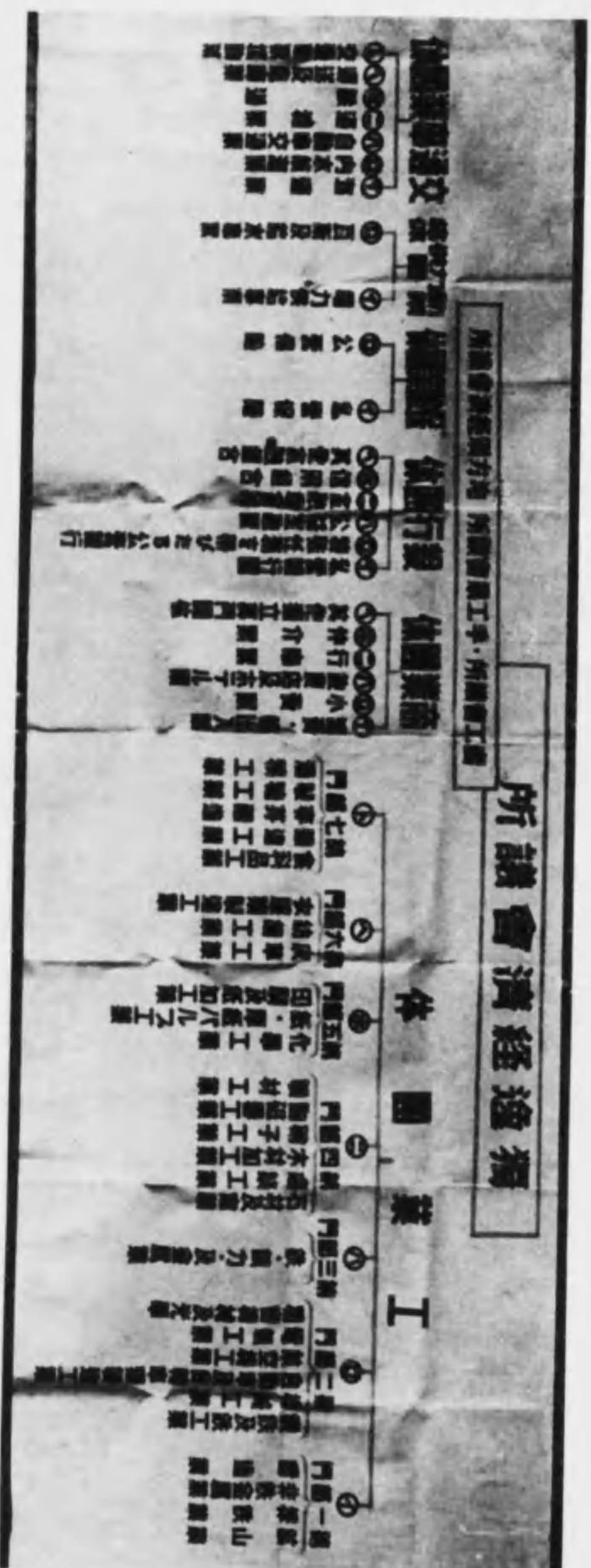
(D 圖參照)

獨逸經濟會議所は、政府の仕事に即應するための民間團體であつて、組合、其他の自由主義經濟の下に於て見た團體ではない。

此の機關は、商工業は勿論のこと、總て經濟に干與して居る業者が、政府の示す國策に沿ふが爲めの機能を果さしめるために出來たものである。業者は其の營業に關しては専門家である丈に、自治を許さるゝに於ては、却つて政府の示す目的遂行が完全に出来る譯である。又、業者も常に官吏に取締られるよりも自由であると信ずるに到つた。又此の機關に因て「國策が個人の利益に先行する」と言ふ意識を商工階級に教へ込む。斯かる機關の下に統轄される諸團體の夫々は、當該部門に屬する業者の強制加入によつて出來た團體である。

此の團體(例へば、工業團體、商業團體、銀行團體、保險業團體、等々)は、從來の營利を目的と

D



各省並に其他の機関

特殊事項

交通

物價

労働

林業

農業

經濟

官次

總裁

四ヶ年計中央機關

E

して出来て居つた組合と異り、全く國策實施の団体である。勿論、獨逸に於て營利の關係は別に業者が其の目的のために、組合又は協定團を作る譯であるが、是等營利団体は前記の國策団体の管理の下に置かれてゐる。

獨逸中央經濟會議所起源としては、大戰後に於て賠償問題、獨逸産業の復興、其他、労働階級の勢力が増大したため、企業家が之等各種の經濟問題を討議し、共同政策を執るべく相談するために集つたのが今の經濟會議所の動機をなしたと見て差支へないであらう。之が其の範圍を擴張し、今の獨逸中央經濟會議所をなすに至つた。

「統制」は取締ではなく、國民が自發的に各般の國策即應によつて實現されてゐる。國民が一致團結其の有する性能を最大限迄發揮し得て、初めて獨逸が英佛を凌駕する「力」を生み出し得たのである。政府や民間機關が、相互に相矛盾する働をなさぬように、各省並に其他の機關の上に、更にE圖が示すような「四ヶ年計劃」が設けられてゐる。此の四ヶ年計劃中央機關の總裁は、ヘルマン・ゲーリング空相である。

最後に、獨逸の觀光事業に就て概説するであらう。

一九三六年、獨逸に於て開催された第十一回オリムピック大會には、今日迄世界に類例なき旅客數が全獨逸のホテルに登録されて居る。之は一面國內人の移動を示すものであるが、更に外人も多かつた。處が、其の外人の數よりも、其の翌年一九三七年には、更に多數の外國人の旅行者が獨逸を訪れた。一九三六年に於る世界各國から集つた外人旅行者の獨逸訪問は、獨逸觀光事業にとつて劃紀的意義を有してゐた。一九三六年の第十一回オリムピック大會に、外國旅行者が獨逸へ集る以前には世界到處に於てナチス獨逸に對するデマのため、外國人は獨逸訪問を見合せ、躊躇してゐた。僅か二時間足らずの航空旅行で獨逸へ到着出来る近い英國に於てさへも、獨逸へ行けばナチスに殺される、と言つたようなデマが英國人に脅威を與へ、爲に、英國からの獨逸への旅行は著しく影響されて居つた。然るに第十一回オリムピック大會を機會に、獨逸へ世界各國から參集した人々は、獨逸の實狀を觀て、獨逸に於ては外國の旅行者は殺されるどころか、安心して心持良く旅行出来ること云ふ自分達の經驗を歸國後、自國の人々に物語つた。斯うした經驗を聞いた人々は、翌年多數新獨逸に對する好奇心も働いて獨逸を訪れた。

此の觀光事業に就て、獨逸が經驗した事實は、直ちに次の二つの意義を示唆する。

- (一) 外國人の訪問は、國內の實狀を外國へ知らしめる。
- (二) 外國の誤解を一掃する。

實に觀光事業は、外貨取得のために優れた役割を演ずる。獨逸の觀光收入は年一億萬マークに達する。外國から旅行者が來れば、少くとも、貿易、船舶、汽車、自動車、ホテル、等々の方面の仕事に携つてゐる人々や機關は利益を得ることが出来る。

夫にも増して最も重要な問題としては、一國の文化を外國へ紹介する機會を作ると言ふことである。

さて獨逸に於ては、觀光施設の一部としてのホテルの數は、所によつては到底全部の外國の旅行者を悉く收容することは出来ない場所も少くない。そこで外國の旅行者は、素人の家に宿泊することが出来る。獨逸に於ては、何れの家も清潔にされてゐる。何十萬人の人出があるライブチツヒ見本市の場合には、ライブチツヒの驛で素人の家の部屋を紹介し、宿泊料も此處で決めるのである。この紹介に對し凡ての手數料二マークを支拂へば良いのである。

第十一回オリンピック大會には、外事係の警察官や、税關の役人は、人情風俗の異つた外國人に對して極めて丁寧親切であつたのは特記すべき点であらう。

オリンピックの際、警察官に與へられた訓示中「外國人は、我國の習慣や法規を知らぬから、何等か問題が起つたら、一應外人側に道理がある、と云ふ取扱ひをすべきである。而して後、徐に處理すべきだ」とまで言はれたと聞いた。

斯くの如く、全國民は擧つて、國家に貴い外貨を落して呉れ、文化を紹介して呉れる外人客を取扱つてゐる。

又、獨逸は爲替管理の爲、國境を通過する外國人の所持せる通貨を一々爲替管理官が検査する。私は興味を以て之に立合つたが、爲替管理官の検査の態度が、いとも世慣れたものであつて、一方、完全に検査の目的を達すると共に、決して検査される外人に不愉快な感じを與へない。斯かる爲替管理官の人選には、當局も特に注意し、之には、人格圓滿、禮儀正しい人を當てゝゐると聞いてゐる。

最後に外人接遇の問題であるが、我國に於ては、外人接遇と言へば、何時でも「宴會攻」といつたような方法を採用。併し、外人は訪れた國の人々に親しく接する機會を持ちたいものであるから、接

遇の中心は、宴會よりも寧ろ、心からの會話であらう。

外人接遇に當る人々の態度は、外人に對して丁寧親切でなければならぬが、外人の意を迎へるがためにやたらと媚びる態度は最も禁物である。外國人が我國の風俗習慣に違背した場合も、多くの場合に知らないでやつて居るのであるから、丁寧に教へる必要がある。又、無作法な外人もないではない。如何なる場合に於ても、無作法に報ゆるに無作法を以てするのでは勝負にならない。無作法に對して立派な丁寧な態度で出れば、少くとも、白人に對して勝利は確實である。外人が婦人に對して禮を盡すのは、女尊男卑ではなく、逆に弱き婦人に對し男の強さを示さんがためであることに注意して置きたい。弱き人の前に強がつて見た處で始まらぬといふ考である。尙 人前で酒に酔ふことは最も自己の尊嚴を傷ねるものである点を申し上げたいのは、日本の厳格な武士道を現實に見に來た外人に逆の印象を與へるからである。餘り内地ではこの点は氣にせぬようであるが、其の惡影響の及ぶところ大であるから注意し置かざるを得ない。

も一つの点は、外人に云はせると、日本婦人は實に見上げたものだが、男子は何故に作法が悪いか汽車の中でも、電車の中でも、ホテルの中でも自制しないのか惜い、と古の「士」を本で讀んで來た

407
106

外人の所感はまた貴重である。
文化が優れ、温泉に恵まれ、風光明媚な日本に於る観光事業のモットーは、單に "Come and see Japan." ではなく、"Come, see and enjoy Japan." でなければならぬ。單に皮相な「けばけばしさ」ではなく、日本人の生活や文化に於る最も優れた要素としての「しぶみ」や「さび」や「禪味」を外國人に紹介し理解させることが、日本の観光事業に課せられた最も困難にして、最も優秀な仕事の一つである。
(終り)

407
106

昭和十五年六月十三日印刷
昭和十五年六月十八日發行

(非賣品)

著者	東京市澁谷區金王町一一 長井亞歷山
發行者	大阪府北河内郡四條村北條一五四〇 荒木三郎
印刷者	京都市中京區西洞院御池上ル 池上政治郎
印刷所	京都市中京區西洞院御池上ル 合名會社改進堂
發行所	京都市中京區烏丸通夷川上ル 京都商工會議所内 法人近畿觀光協會

外人の所感はまた貴重である。

文化が優れ、温泉に恵まれ、風光明媚な日本に於る観光事業のモットーは、單に "Come and see Japan," ではなく、"Come, see and enjoy Japan," でなければならぬ。單に皮相な「けばけばしさ」ではなく、日本人の生活や文化に於る最も優れた要素としての「しふみ」や「さび」や「禪味」を外國人に紹介し理解させることが、日本の観光事業に課せられた最も困難にして、最も優秀な仕事の一つである。

(終り)

終

